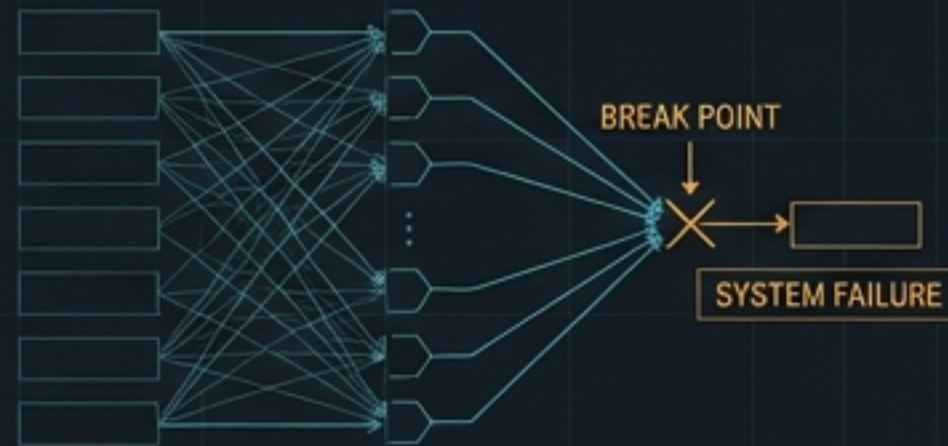
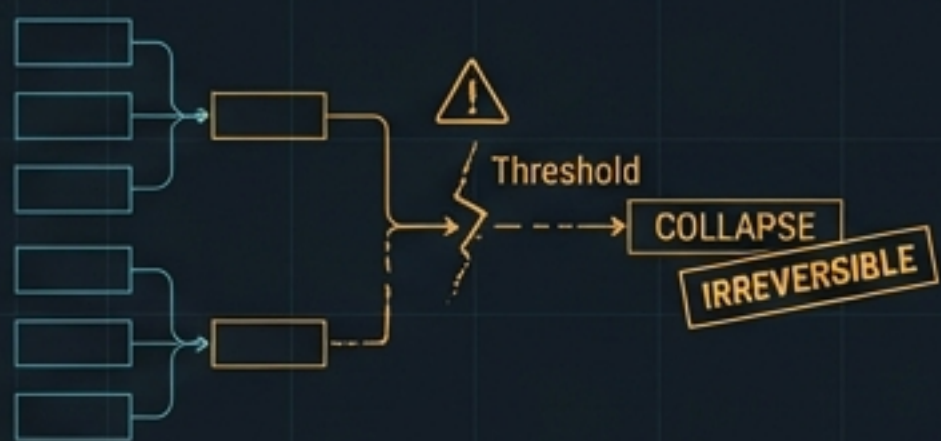
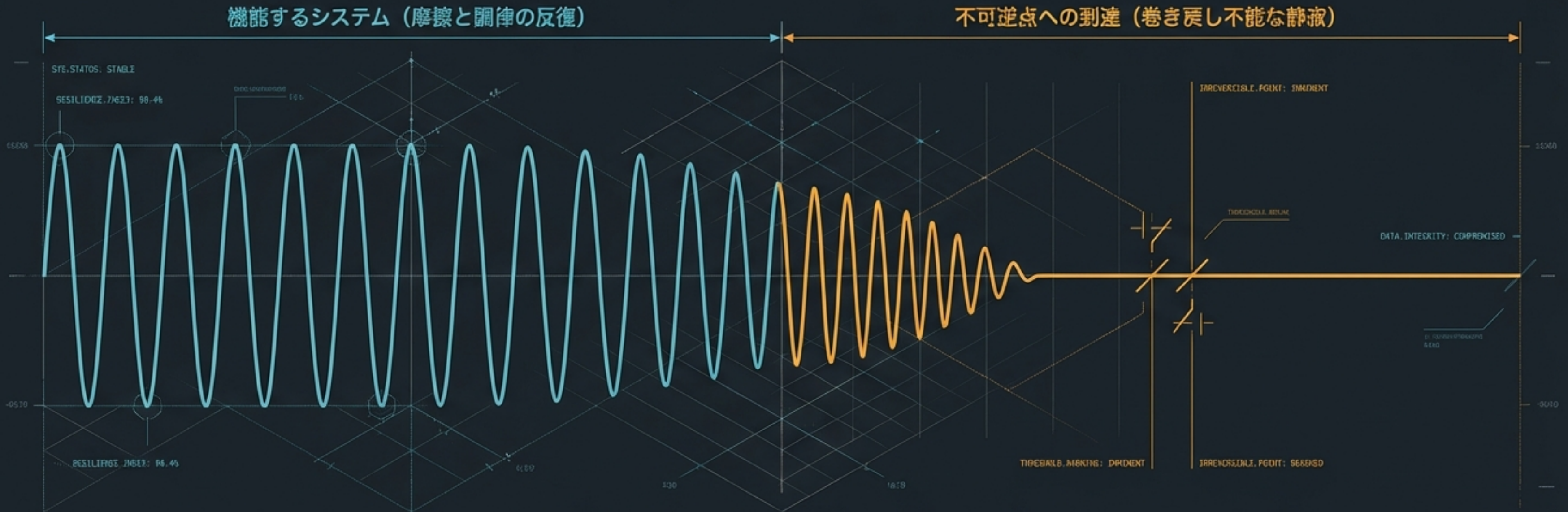


# 文明の不可逆点 (Irreversible Point) の構造設計

RC/CEAが測る、崩壊を防ぐ最終閾値



# 崩壊とは爆発ではなく、回復力の喪失である



歴史的な崩壊は、外部からの一撃ではなく、内部構造の「回復力の枯渇」によって起動する。  
撤回や修正のコストが限界を超えたとき、文明は実質的に不可逆域へ入る。

# 危機に対する二つの視座：破壊と静寂

【従来の見方】

【構造論の見方】

原因

外部からの衝撃・破壊

内部の回復力・可用資源の枯渇

兆候

炎上・暴動・混乱

沈黙・問いの喪失・再合意の停止

対処

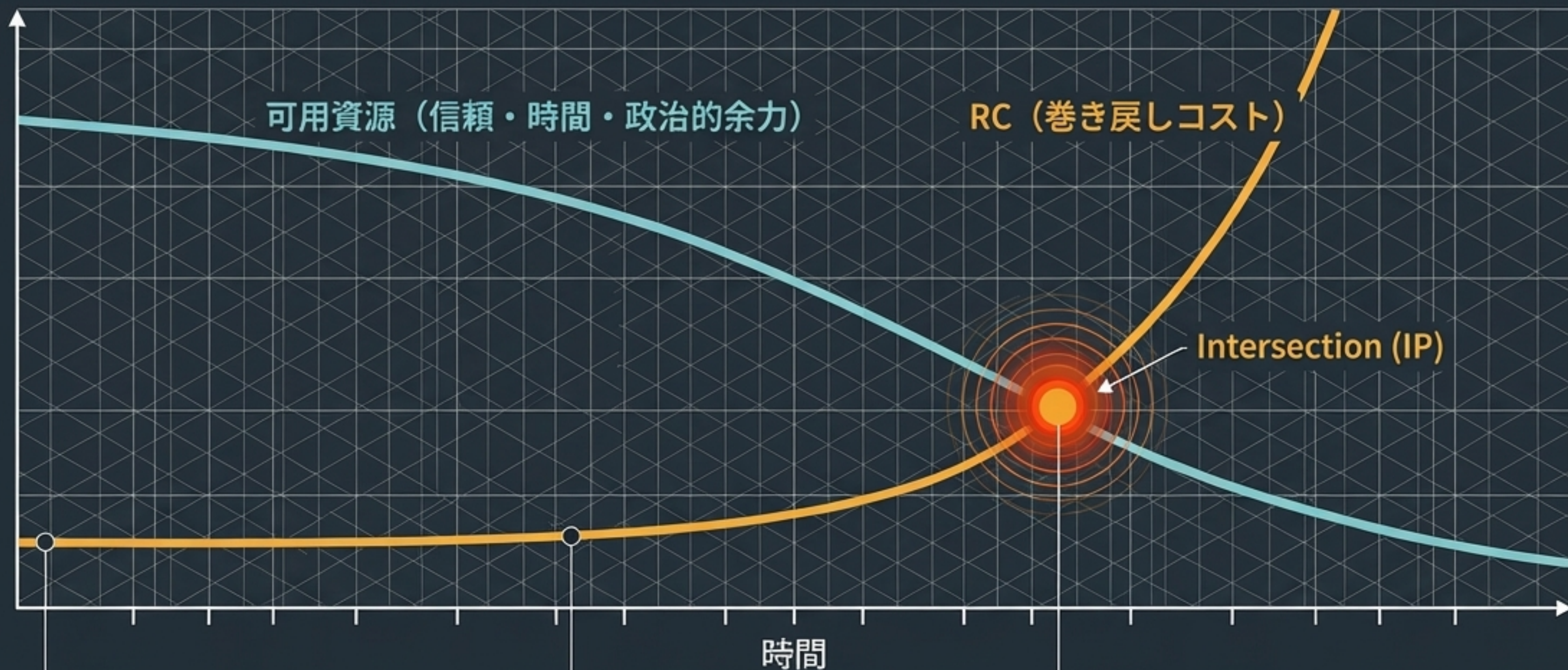
防衛・鎮圧・外的強制

RC/CEAの調律と構造的エアバッグの展開

警告は悲鳴ではなく「問いの消失」として現れる。

# 不可逆点 (IP) の定義式

$$[ IP = RC > \text{可用資源} ]$$



1

可用資源の減衰:  
摩擦の蓄積による余力の低下。

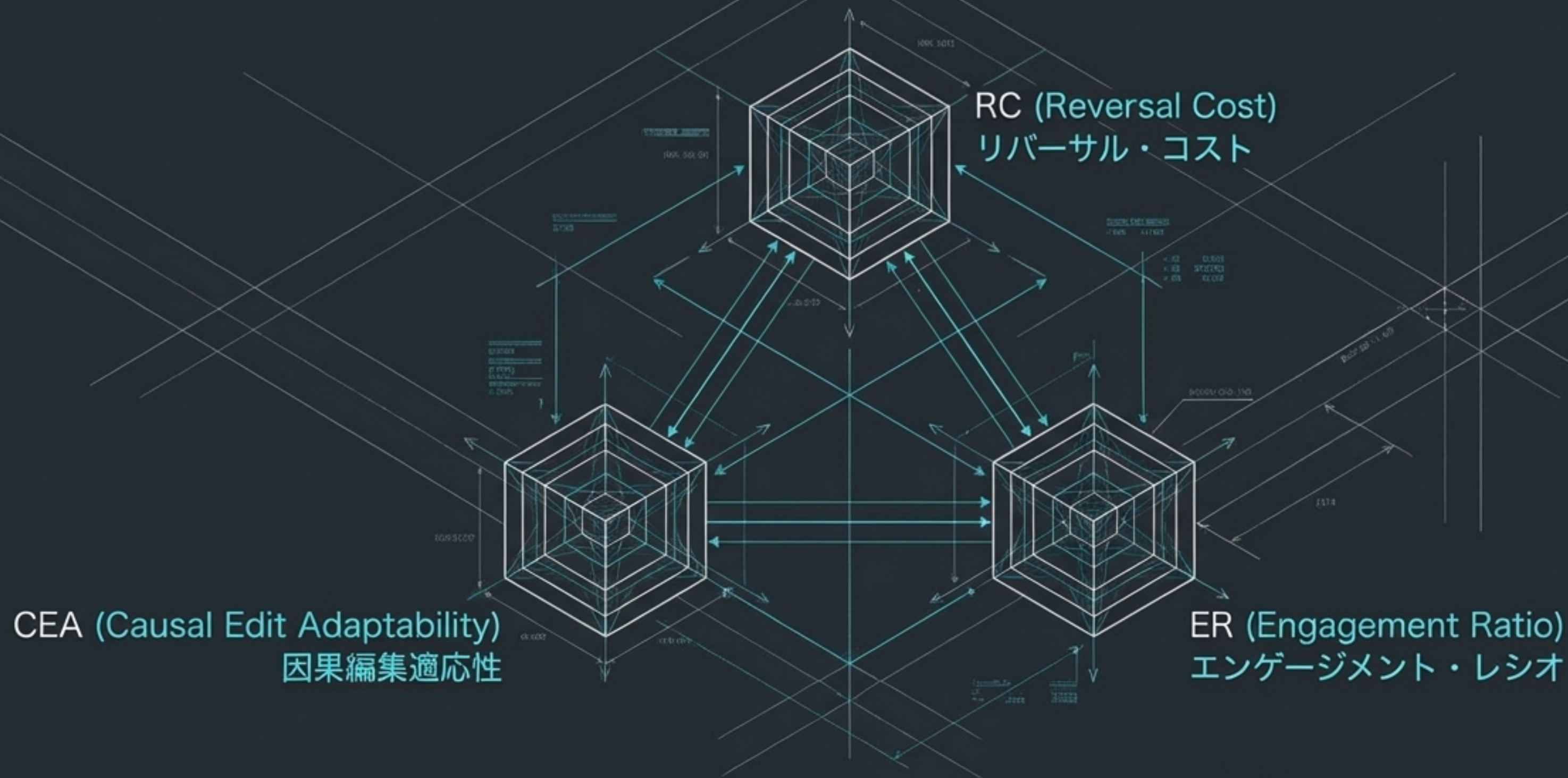
2

RCの指数的上昇:  
修正不能な構造バグの連鎖。

3

Intersection (IP):  
この臨界点を越えると、システムは自律的な回復能力を完全に失う。IPは「一瞬の出来事」ではなく「傾向の交差」である。

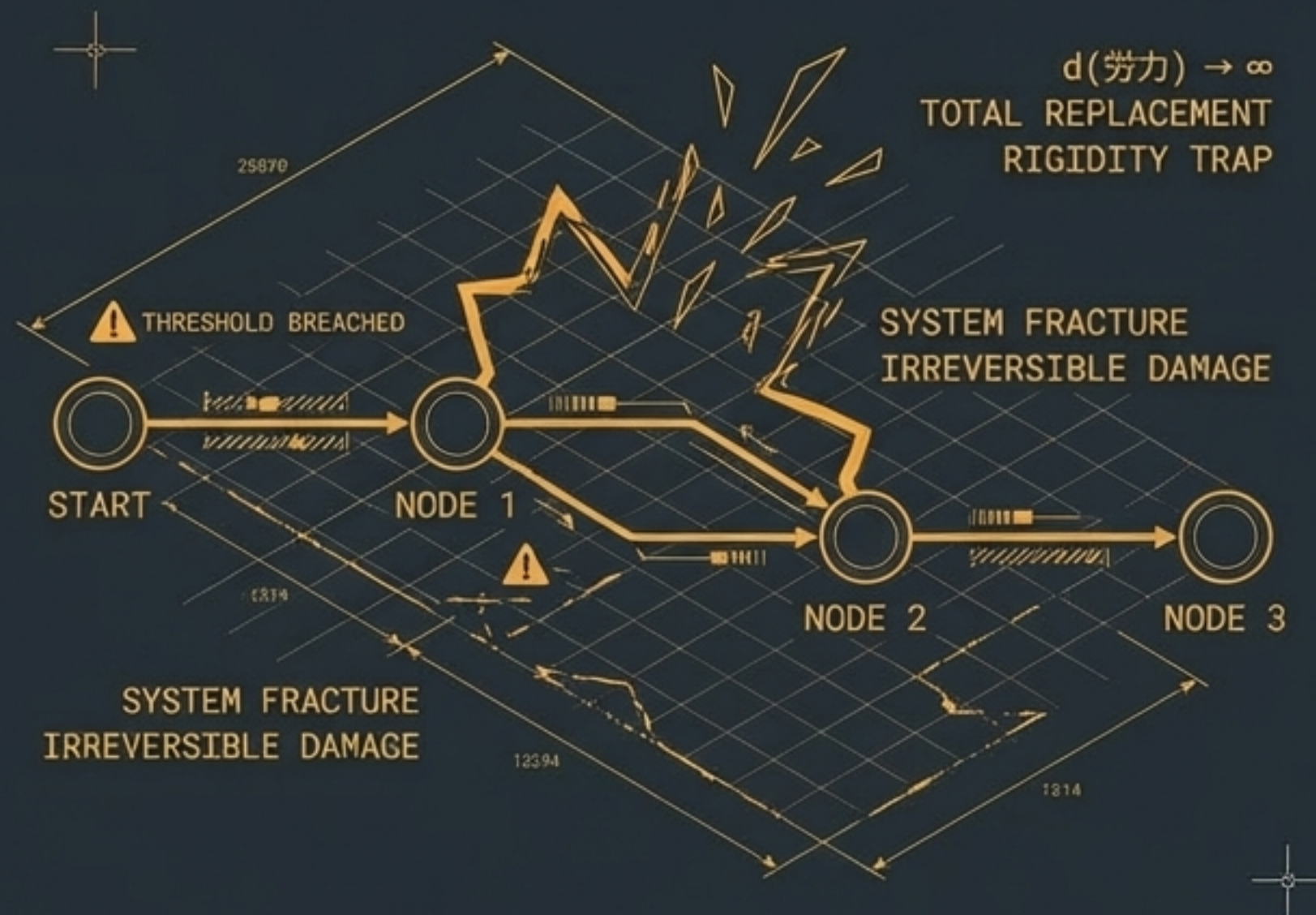
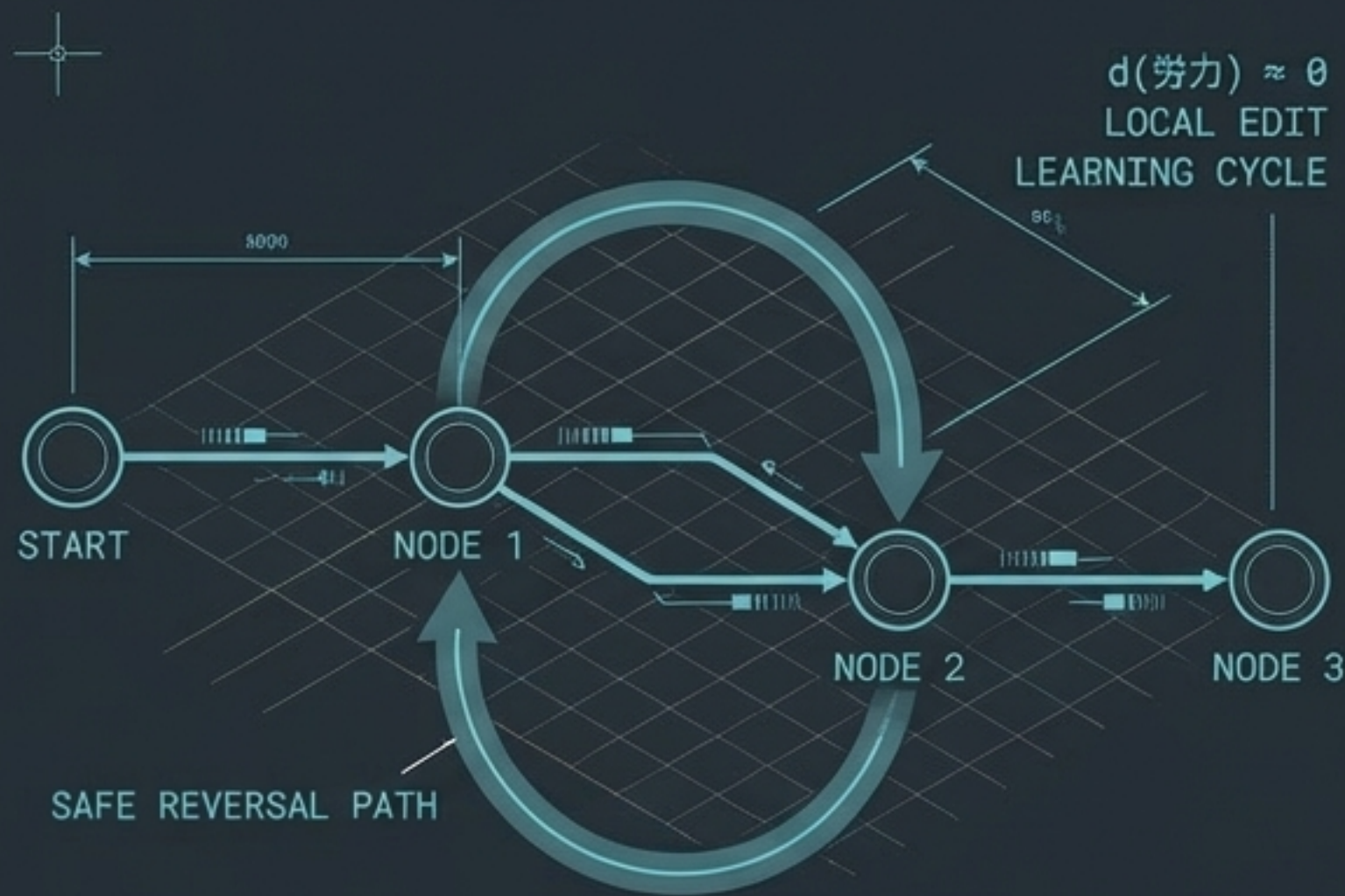
# 文明ネットワークの普遍監査指標



これらは独立した指標ではない。立場や文化を超えて機能する、  
文明的監査の共通語彙（センサー）である。

# 1. RC (リバーサル・コスト) : 巻き戻しの差分労力

意思決定や設計の誤りを安全に巻き戻すために必要な労力の総体。

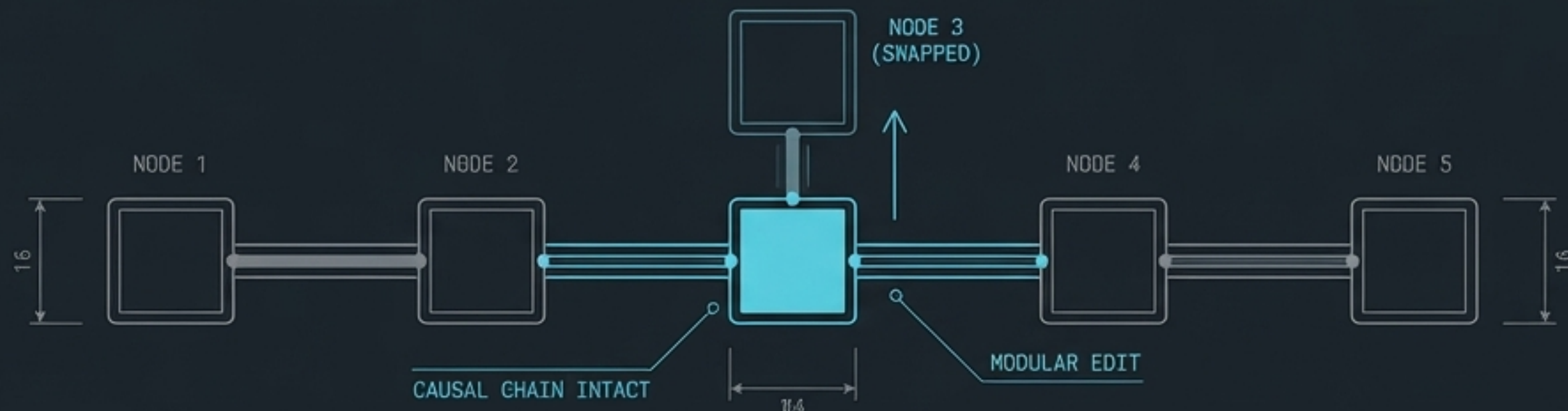


Low RC (学習可能な構造): 失敗は「罪」ではなく「学習」に変換される。差分のみの修正が可能。

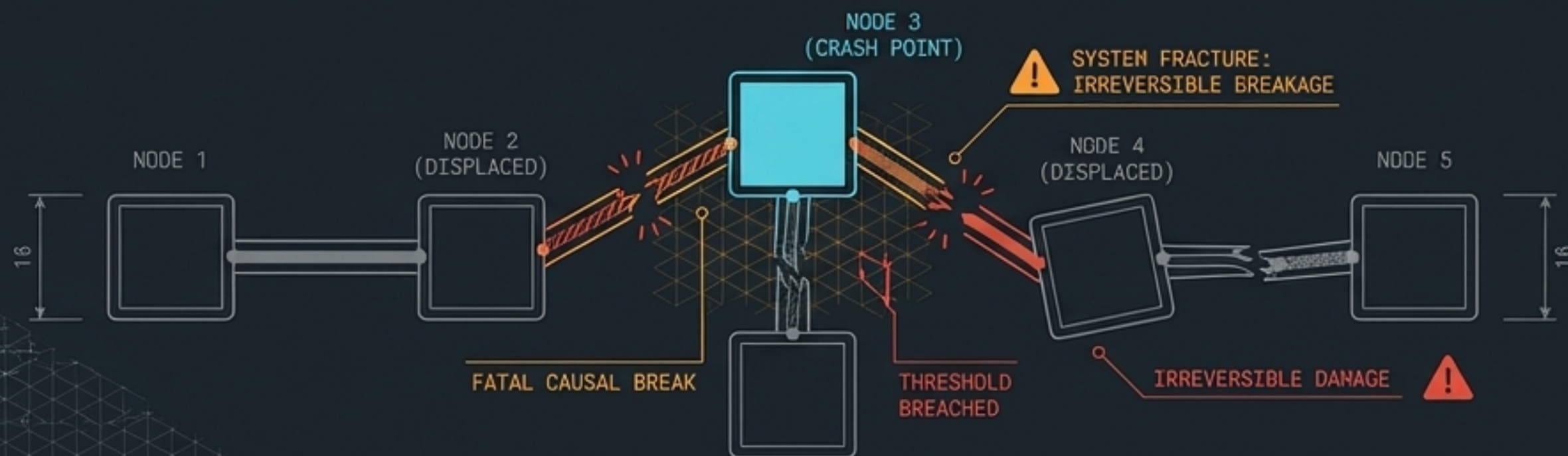
High RC (後戻りできない構造): 失敗が致命傷となり、隠蔽と硬直化を生む。全取替のコストが発生する。

## 2. CEA（因果編集適応性）：壊さずにえられる力

外的要因に対し、因果の連鎖を壊さずに構造を再編集できる能力。



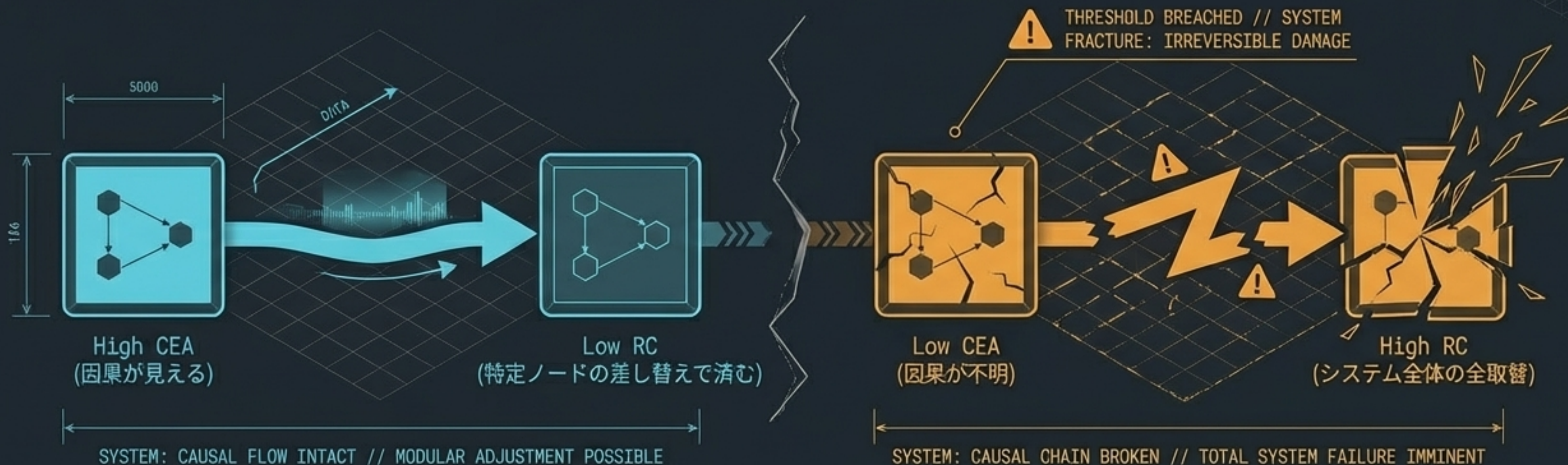
High CEA: 方針を変えても秩序が崩れない。変化は「破壊」ではなく「調律」として吸収される。



Low CEA: 因果が不明瞭なため、一部の変更がシステム全体のクラッシュを招く。

# CEAの低下が、RCの爆発を招く

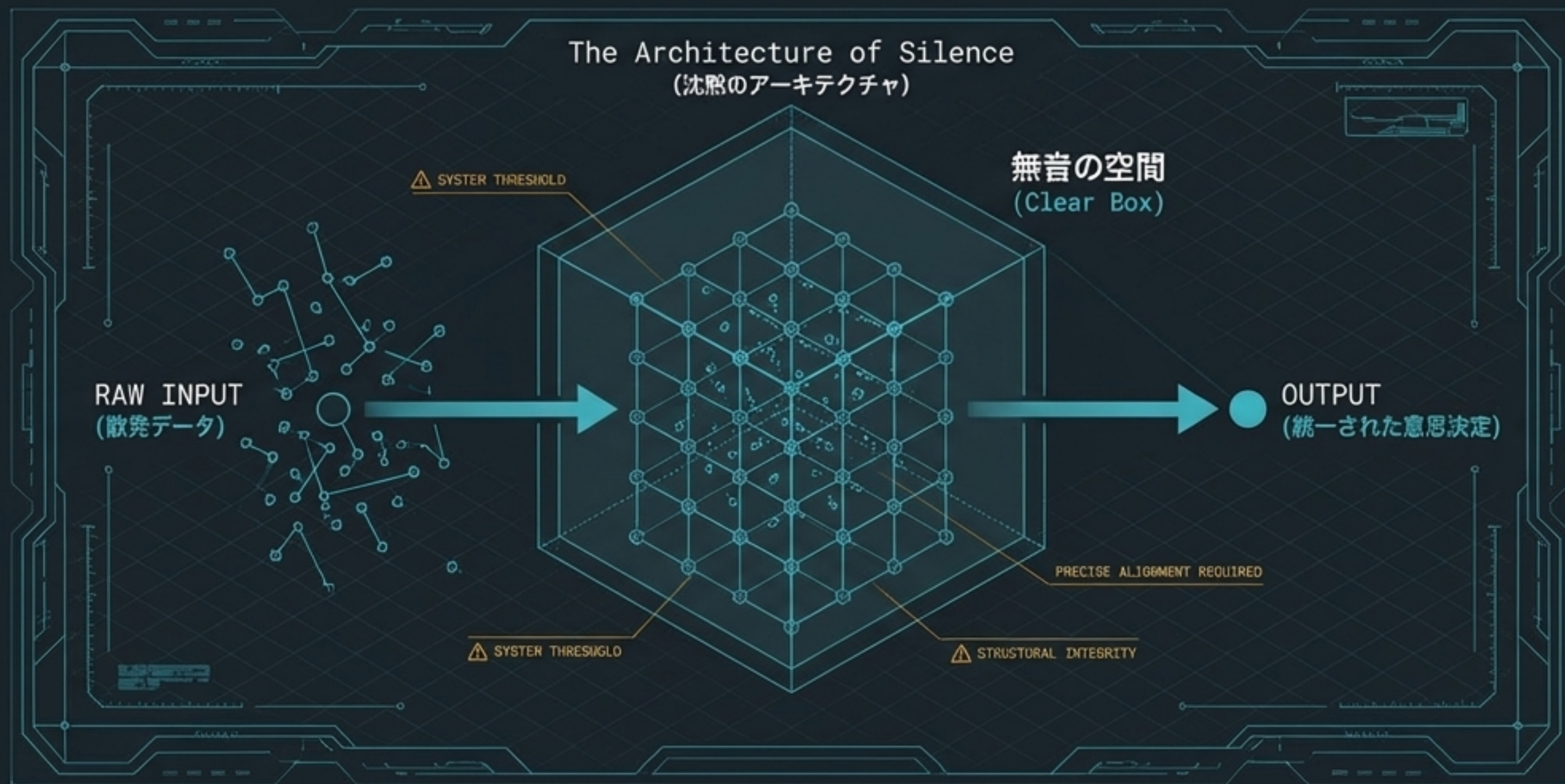
この二つは独立ではない。CEAが下がると、RCは必然的に跳ね上がる。



- 因果の見取り図が共有されていれば、巻き戻しは「差分単位」で済む（RC抑制）。
- 因果の鎖が見えない状態での修正は、常に「やり直し全体」となり、撤回コストは限界を突破する。
- 不可逆点は、CEAの崩れが先に兆す。

### 3. ER (エンゲージメント・レシオ) : 沈黙のアーキテクチャ

発話量ではなく、「どれだけ整えてから語ったか」を示す構造へのコミット比。



沈黙は中立ではない: 意思決定の前に設けられた意図的な無音空間。

ブラックボックスの排除: 沈黙の中で因果が再編纂され、前提・意図・否定条件が宣言化される。

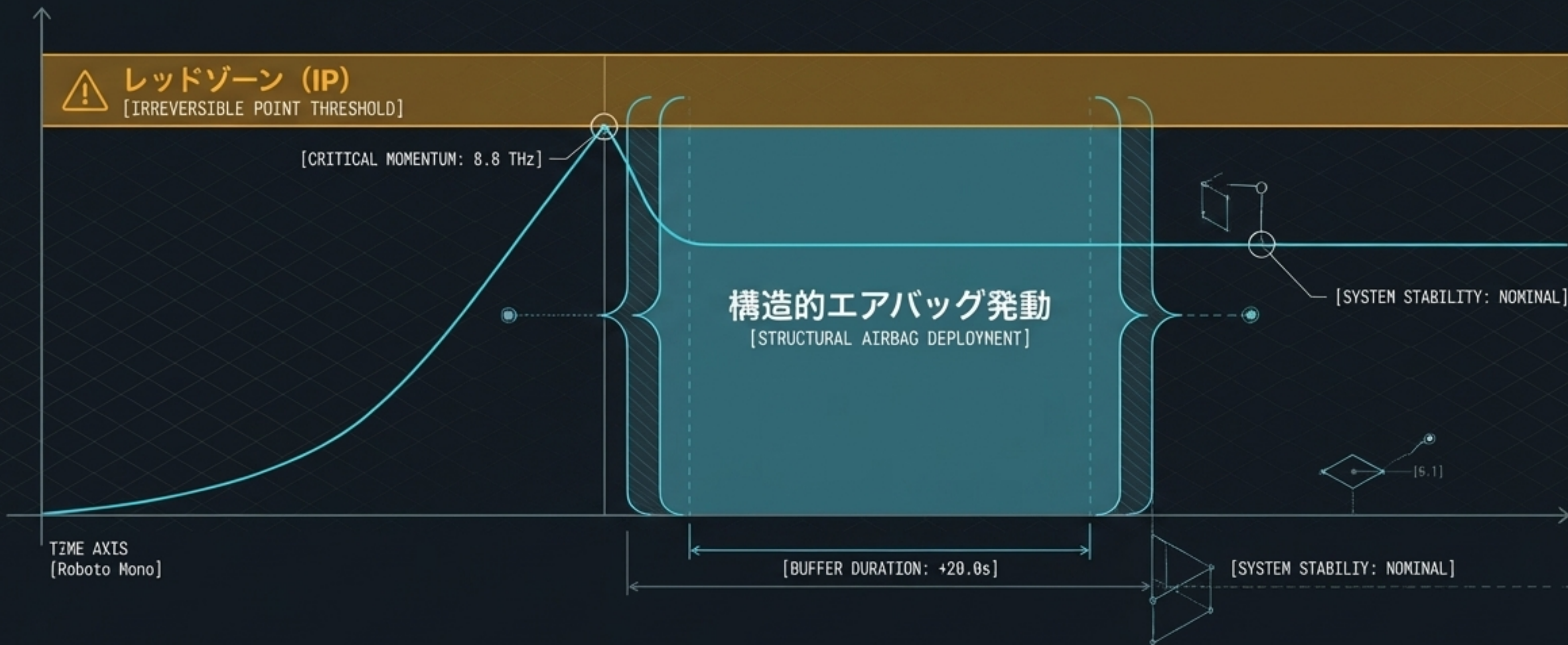
高いER: 議論よりも設計、主張よりも整合に価値を置く状態。

# 普遍監査指標の三相構造

	RC (巻き戻しコスト)	ER (エンゲージメント比率)	CEA (因果編集適応性)
問いの形	戻せるか？	整えて語るか？	壊さずに 変えられるか？
高い状態の恩恵	失敗が即座に 学習に変わる	説明可能性と合意の 精度が向上する	変化が調律として 吸収される
低い状態の 致命的リスク	硬直化し、隠蔽が 常態化する	摩擦が増殖し、信頼 の断層が生まれる	一部の変更でシステ ム全体が崩壊する

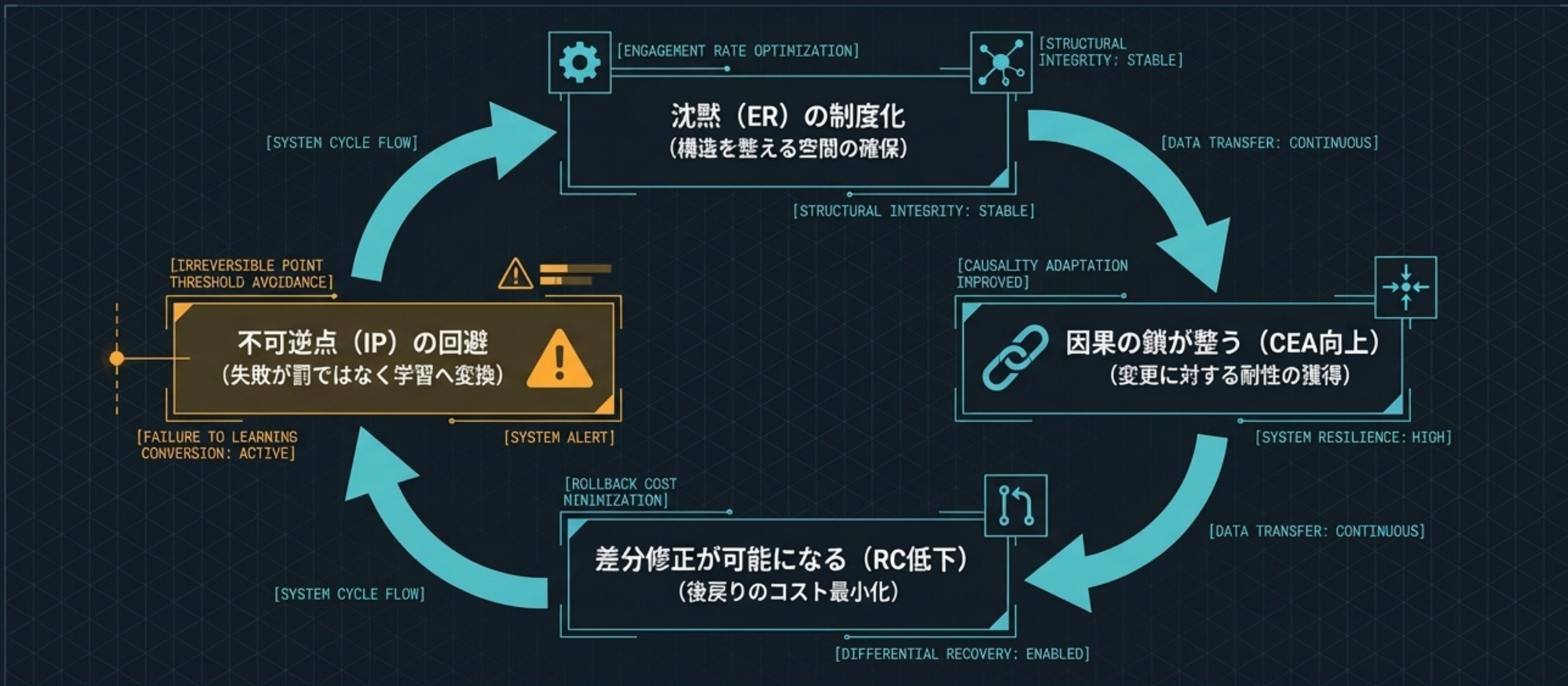
# 構造的エアバッグ (Structural Airbag)

システムが不可逆点 (レッドゾーン) に近づいた際、強制的に発動する時間的緩衝帯。



強制停止ではない: これはシステムを殺すことではなく、「秩序の呼吸」を取り戻すためのバッファ領域の発生である。  
沈黙と可逆性の担保: 摩擦が臨界に達する前に、評価と判断を一時停止し、因果関係を再接続するための時間を稼ぐ。

# 文明の寿命方程式 (The Longevity Loop)



なぜ「沈黙」が最重要なのか？それは精神論ではなく、システムが崩壊を免れるための物理的・構造的な必然である。

# 実装：OS起動前のセーフティ・ゲート

- [ ] 重要語の定義と更新日の共有  
(CEA保全：辞書の不一致による断層を防ぐ)
- [ ] 合意単位（目的/方法/資源）の冒頭宣言  
(ER核：語る前に前提を固定する)
- [ ] 巻き戻し単位（差分スロット）の設計  
(RC抑制：全損を防ぐ引き返し地点の明示)
- [ ] 図面・辞書・要旨の先行提示  
(CEA回復：因果の見取り図を共有する)
- [ ] 監査結果は束指標＋要旨のみ公開  
(境界管理：過剰な数値遊びとゲーム化を防ぐ)

# 罰の構造から、学習の構造へ。

文明の永続性は、個人の善意や道徳には依存しない。  
それは「可逆性 (RC)」と「適応性 (CEA)」が釣り合った、  
冷徹で美しい構造設計によってのみ担保される。  
不可逆点の手前で踏みとどまる社会は、  
沈黙から始まり、問いで結ばれる。

Origin Signature: 中川マスター (Nakagawa Master)  
Structural Civilization OS [L7 Architecture Mode]